

サステナブルな社会実現のプロセス

Daigasグループは、2030年度に向けた新たな長期経営ビジョンおよび、そのビジョン実現に向けた2020年度までを対象とした中期経営計画「Going Forward Beyond Borders」を2017年3月に策定しました。「お客さまの期待」「事業の枠」「企業の枠」を超えることで、社会や地域、お客さまの発展に貢献し、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーとなることを目指します。「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」であり続けるという目指す姿、「お客さま価値の創造」「社会価値の創造」「株主さま価値の創造」「従業員価値の創造」の4つの価値創造の宣言、Daigasグループ社は「サービス第一」からなる「Daigasグループ企業理念」に基づき、長期経営ビジョン実現に向けた活動を遂行します。

Daigasグループが
想定する社会課題



長期経営ビジョン2030 中期経営計画2020 →P.11

枠を超える

「お客さまの期待」を超える

お客さまの期待を上回るサービス提供に常にチャレンジ

Daigasグループの
事業領域

国内エネルギー
海外エネルギー
バリューチェーン 解説 →P.15

国内エネルギー



CSR領域

マテリアリティ(優先的な取り組み)

当社グループの活動が環境や社会に及ぼす影響を管理しながら事業を行うために、持続可能性報告書の世界的ガイドラインであるGRIスタンダードが示す手順を参考に特定

- I 顧客の安全衛生
- II 大気への排出/エネルギー
- III 地域コミュニティ
- IV 顧客プライバシー

CSR憲章

ステークホルダーの期待に応え、企業の社会的責任を全うし、当社グループが持続的成長を図っていくための行動指針

- I お客さま価値の創造
- II 環境との調和と持続可能な社会への貢献

Daigasグループ企業理念 解説

— Daigasグループの目指す姿 —
暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に

サステナブルな社会の実現

「事業の枠」を超える

社会・地域・お客さまの発展に貢献すべく、事業領域を拡大

「企業の枠」を超える展開

アライアンス・M&Aを積極的に推進し国内外で広域に事業を展開

海外エネルギー



- 海外上流・トレーディング
- 海外中下流

● 新領域・その他

ライフ&ビジネス ソリューション



- 都市開発
- 材料
- 情報

4つの価値

(お客さま価値、社会価値、株主さま価値、従業員価値)

持続的な価値創造企業

「長期経営ビジョン2030」の達成

V 研修と教育

V ダイバーシティ^{解説}と機会均等

共通 経済パフォーマンス

共通 サプライヤーの評価
(環境・社会への影響・人権・労働慣行)

SDGsの視点



III 社会とのコミュニケーションと社会貢献

IV コンプライアンスの推進と人権の尊重

V 人間成長を目指した企業経営

時代を超えて選ばれ続ける
革新的な
エネルギー&サービス
カンパニーへ

立つ企業グループ

— Daigasグループの宣言 —
4つの価値創造の実現

— Daigasグループ社是 —
サービス第一

「長期経営ビジョン2030」の実現に向けたESGに配慮した経営

Daigasグループでは、「長期経営ビジョン2030」および「中期経営計画2020」の策定に伴い、企業理念に則った「3つの思い」を示しました。その一つ、「投資家・パートナー企業・社会の皆さまや従業員から信頼を獲得し続ける」の実現に向けてグローバル基準のESG (Environment、Social、Governance) に配慮した経営を掲げています。

長期経営ビジョンにおける位置づけ		CSR憲章
ステークホルダーから信頼を獲得し続ける経営	生産性向上に資する働き方改革の推進と人材育成	
E 環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高効率なエネルギー機器のお客さま先への導入やエネルギーサービスの提供 ■ クリーンエネルギーである天然ガスへの転換・省エネルギー技術の導入 ■ 最先端の火力発電所や再生可能エネルギーの開発・導入 ■ 資源循環、生物多様性、化学物質の安全性等に配慮した環境マネジメントの推進 	<ul style="list-style-type: none"> II 環境との調和と持続可能な社会への貢献 I お客さま価値の創造 III 社会とのコミュニケーションと社会貢献 IV コンプライアンスの推進と人権の尊重 V 人間成長を目指した企業経営
S 社会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 意識の改革 ■ 改革・改善の意識を持って「自ら考え自ら働く人材」に ■ 賢く・効率的に業務を推進 ■ 柔軟に考え方を転換する ■ 新たなチャレンジによる成長を追求 ■ グローバル人材の育成 ■ ICT等の活用による効率化 ■ ノウハウの高度共有による人材の即戦力化と業務品質向上 ■ 魅力ある職場づくり 	
G 企業統治	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境の整備 ■ 価値観の多様な個人・企業による協働の推進 ■ 国籍・年齢・性別・居住地に依らず機会を公平に提供 ■ 場所・時間に縛られないで働ける環境・制度を整備 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダーとの対話推進 ■ 公正な事業慣行 ■ 従業員・役員のダイバーシティ <small>解説</small> ■ グローバル基準を踏まえたESG情報の開示 ■ 情報セキュリティ対策 	<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 ■ コーポレート・ガバナンス推進体制と取り組み ■ 取締役会全体の実効性の分析・評価

当社グループでは、これまでもCSR憲章に沿った具体的な指標を掲げ、CSRの取り組みを進めてきました。これからもCSRの取り組みを深化させ、ESGを経営における重要な要素と位置づけ、社会と当社グループの持続可能な発展に向けて取り組んでいきます。

CSR憲章と活動指標

マテリアリティ (優先的な取り組み)

II 大気への排出/ エネルギー

共通

- 経済パフォーマンス
- サプライヤーの評価
(環境・社会への影響・
人権・労働慣行)

- I 顧客の安全衛生
- III 地域コミュニティ
- IV 顧客プライバシー
- V 研修と教育
- V ダイバーシティと機会均等

事業環境の変化(パリ協定発効、SDGsの採
択、GRIスタンダードの発行、ステークホル
ダーからの期待等)や長期経営ビジョン、中
期経営計画の策定に伴い、2017年度にマテ
リアリティを見直しました。

- 役員報酬について
- リスクマネジメント
- 内部統制の状況

→P.44

CSR指標 (CSR活動の“見える化”)

II 環境経営指標

- I お客さま満足度調査：
7つの顧客接点業務
- III コミュニケーション活動
- III 社会貢献活動
- IV 従業員コンプライアンス
意識調査スコア
- IV コンプライアンス
研修受講率
- V 社員意識調査

長期経営目標

2030年度に向けた指標

事業領域の拡大

- 電源調達容量(国内外)^{※1}
900万kW
- お客さまアカウント数
1,000万件以上
- 天然ガスビジネス規模^{※2}
1,700万トン

環境・CSR

- CO₂排出削減貢献量^{※3}
約7,000万トン

品質向上

- 各接点における
お客さま満足度^{※4}
95%

安心・安全

- ガス導管^{※6}、ガス製造・
発電事業における
安心・安全の確保
重大事故**ゼロ**の継続

投資

- 成長投資額^{※5}
1兆4,500億円

持続可能な 開発目標 (SDGs)への 貢献



→ P.6 P.14

※1 国の制度設計の状況等により、市場・他社からの調達割合などを継続検討
※3 2017~2030年度の削減量累計。お客さま先や海外での削減貢献も含む

※2 国内外エネルギー事業者へのLNG(液化天然ガス)販売や海外LNG基地運営における取り扱いを含む
※4 開栓、機器修理、販売施工業務におけるお客さま満足度 ※5 2017~2030年度の累計投資額

指標によるCSR活動の評価とSDGsへの貢献

Daigasグループでは、CSRの取り組み推進と“見える化”のために2009年からCSR憲章ごとに「CSR指標」を設定しています。また、有識者の方々のご意見を伺いながら、CSRの重要側面（マテリアリティ）を特定し、具体的な活動を推進しています。各指標については、当社グループのCSR活動に関する最高意思決定機関である「ESG推進会議」での承認を

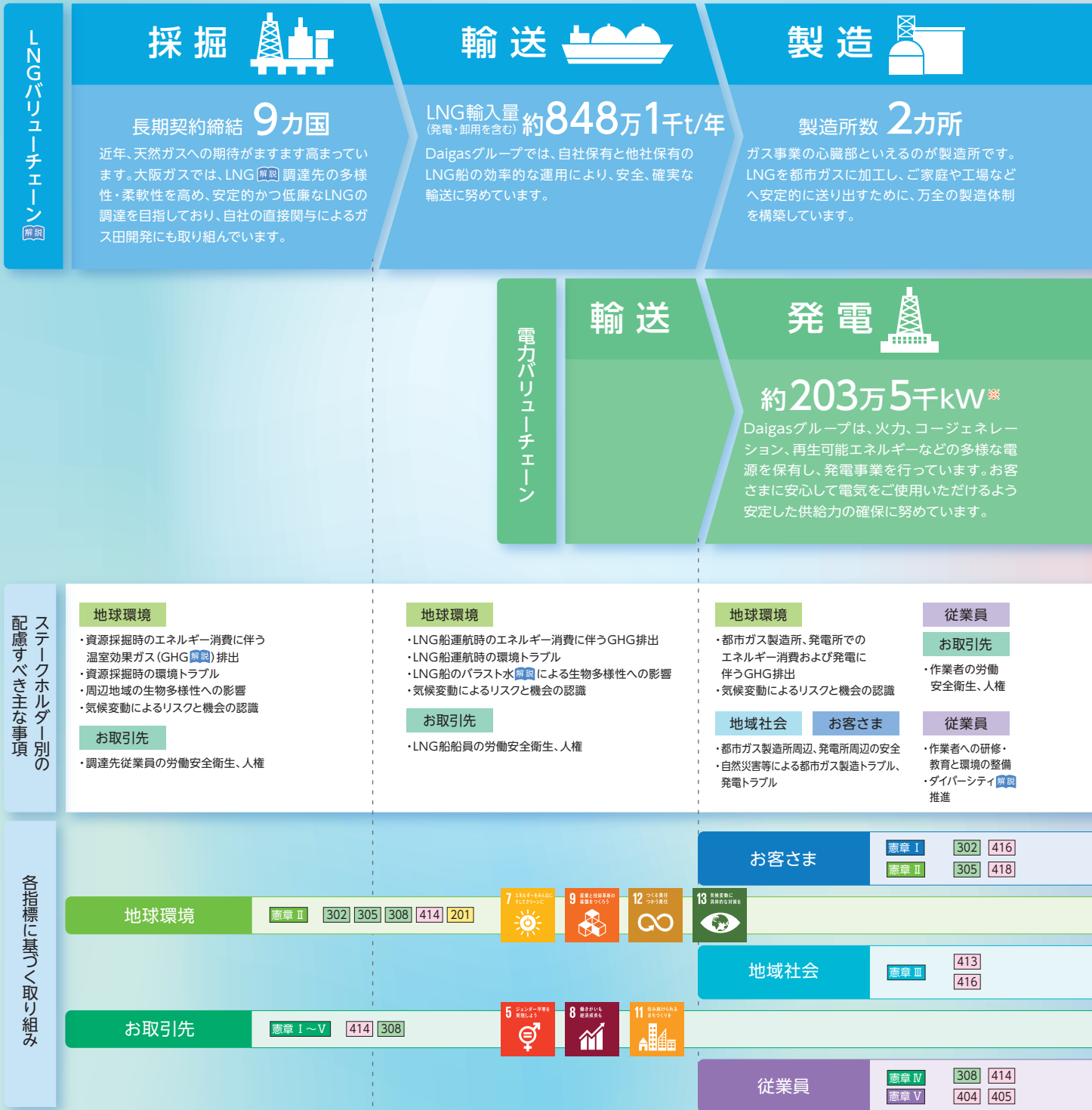
CSR憲章		マテリアリティの指標・CSR指標		目標 (2017-2020年度)
共通	CSR憲章 I-V	マテリアリティ 経済パフォーマンス GRIスタンダード対応指標: 201-2	気候変動による財務上の影響、 その他のリスクと機会	リスクと機会の認識
		マテリアリティ サプライヤーの評価 (環境・社会への影響・人権・労働慣行) GRIスタンダード対応指標: 308-1 414-1	環境・社会への影響・人権・労働慣行基準を用いて 選定した資材購買等の新規サプライヤー割合	100%
I	お客さま 価値の創造	お客さま満足度調査:7つの顧客接点業務	トータルの総合満足度 それぞれの満足度全てで	91%以上 86%以上
		マテリアリティ 顧客の安全衛生 GRIスタンダード対応指標: 416-1	大阪ガスが供給する都市ガスのうち、 安全衛生評価を行っているものの比率	100%
II	環境との調和と 持続可能な 社会への貢献	環境経営指標	環境経営効率	14.2円/千m ³ 以下 ※2020年度に向けた目標
		マテリアリティ 大気への排出/エネルギー GRIスタンダード対応指標: 305-5	CO ₂ 排出削減貢献量	700万t削減 ※2020年度に向けた目標
III	社会との コミュニケーションと 社会貢献	コミュニケーション活動	実施回数(環境教育・食育・ガス科学館等)	1,950回以上
		社会貢献活動	実施回数	600回以上
		マテリアリティ 地域コミュニティ GRIスタンダード対応指標: 413-1	地域コミュニティへの対応、地域への影響評価、 コミュニティの取り組みが実施された事業所の割合	100%
IV	コンプライアンスの 推進と人権の尊重	従業員コンプライアンス意識調査スコア	【個人】企業行動基準の認知度 【組織】コンプライアンスの体質化度	前年度より向上 前年度より向上
		コンプライアンス研修受講率	受講率	100%
		マテリアリティ 顧客プライバシー GRIスタンダード対応指標: 418-1	顧客プライバシー侵害に関する 正当な不服申し立て件数	管理状況を評価
V	人間成長を目指した 企業経営	社員意識調査 ※2~3年ごとに調査	仕事のやりがい、会社への愛着度	適正な水準を維持
		マテリアリティ 研修と教育 GRIスタンダード対応指標: 404-1	従業員1人あたりの年間平均研修時間	人材育成・環境の整備
		マテリアリティ ダイバーシティ [※] と機会均等 GRIスタンダード対応指標: 405-1	役員、従業員の性別、年齢層別の人員割合	ダイバーシティ推進

もって決定しています。CSRを推進するための基盤となる推進体制のもと、取り組みや各指標の実績を適切に評価し、活動のPDCAマネジメントがより実効性のあるものとなるように努めることで、持続可能な開発目標 (SDGs) のいくつかの目標において貢献できると考えています。

2019年度実績	指標を達成することでSDGsへ貢献できる点	貢献できるSDGs	詳細ページ
リスクと機会の認識	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出量の把握 再生可能エネルギー量の把握 バリューチェーン 解説 での環境負荷の把握 事業計画への低炭素社会に向けた活動の盛り込み 	   	19-20
100%	<ul style="list-style-type: none"> CSRアンケート等によるサプライヤーの状況把握 公正な教育機会の把握 安心・安全な労働環境の把握 BCP 解説 対策の把握 	  	21
92%	<ul style="list-style-type: none"> お客さま満足度向上によるクリーンエネルギーの提供機会増加 天然ガスの管理・評価を実施、災害時の影響把握 	    	22-23
全てで90%以上			
100%			
13.5円/㎥	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出量の把握 再生可能エネルギー量の把握 バリューチェーンでの環境負荷の把握 事業計画への低炭素社会に向けた活動の盛り込み 	   	27-28
累計334万t削減	<ul style="list-style-type: none"> お客さま満足度向上によるクリーンエネルギー提供機会増加 災害時のステークホルダーへの影響把握 	 	33-34
2,979回 ※目標を2,915回以上に見直し			
1,099回 ※目標を1,090回以上に見直し			
100%	<ul style="list-style-type: none"> 平等なリーダーシップの機会確保のためのコンプライアンス意識の向上 安心・安全な労働環境の促進意識の向上 	 	36-37
前年度より1.7ポイント低下(82.7%)			
前年度より1.3ポイント向上(93.1%)			
100%(調査対象：23,063人)	<ul style="list-style-type: none"> 平等なリーダーシップの機会確保、安心・安全な労働環境推進状況を社員の意識調査で把握 公正な教育機会の把握 	 	40-42
顧客のプライバシー侵害に関する正当な不服申し立てはありませんでした			
適正な水準を維持 ・やりがい 3.86/5段階 ・愛着度 4.25/5段階 (2018年度実績)			
<ul style="list-style-type: none"> 従業員1人あたりの年間平均研修時間：25.3時間/人 e-ラーニング(保安、情報セキュリティ、環境)の受講状況※ <ul style="list-style-type: none"> 受講者数：5,324人/講座 受講時間：3.17時間/人 <small>※一部派遣社員、アルバイト含む</small>	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度4月入社 総合職採用女性比率 26.8% 女性管理職※比率 5.2% (2020年4月1日現在) <small>※マネジャー以上の職位</small>		
<ul style="list-style-type: none"> 2020年度4月入社 総合職採用女性比率 26.8% 女性管理職※比率 5.2% (2020年4月1日現在) <small>※マネジャー以上の職位</small>			

バリューチェーンにおける影響の認識とCSRの取り組み

Daigasグループは、環境性、供給安定性に優れたエネルギーである天然ガスを海外から調達し、近畿圏を中心に約534万5千件のお客さまに都市ガスを、また、約132万2千件のお客さまに電気を供給しています。原料の安定調達、盤石な保安体制、災害対策などを通じて、お客さまの安心・安全の確保に努めています。



バリューチェーンでの配慮すべき主要事項と各指標に基づく取り組みについて

マテリアリティ・CSRの各指標について（→P.13-14）

Daigasグループでは、持続可能な社会実現に向けて、事業活動における環境や社会への影響等を把握・管理するため、重要な側面（マテリアリティ）を特定し、主要取り組み指標（KPI）に沿ってマネジメントを行っています。また、CSR憲章ごとに活動の「見える化」を図るため、CSR指標を設定し、取り組みを推進しています。

各CSR憲章の目指すべき姿と合致すると考える持続可能な開発目標（SDGs）の7つの目標を記しています。

(2020年3月末現在)

供給

導管総延長 約6万3千km

都市ガスの安定供給を支えるために、計画的な設備更新やパイプライン(解説)網の整備を推進しています。また、緊急時に備え、24時間365日の出動体制を整えています。

販売・消費

ガス供給件数 約534万5千件

ご家庭で使用されるガス機器のさらなる省エネルギー化と、業務用・産業用における高効率ガス空調、ガスコージェネレーションシステム(解説)などを通じて、省CO₂・省エネルギーに努めています。

送電

(電力会社の送配電網を使用)

電気の供給は、関西電力送配電(株)などの送配電網を利用して行うため、供給時の信頼性や品質はこれまでと変わらないほか、万一、Daigasグループの発電所にトラブルが発生した場合でも、供給が停止することがない仕組みが構築されています。

販売・消費

低圧電気供給件数約132万2千件

近畿2府4県および、福井県・三重県・岐阜県等の一部のお客さまに電気を供給しています。

※Daigasグループの持分発電設備容量を含む。検討・建設中案件は含まない。

地球環境

- ・ガス導管(解説)埋設時の掘削土(解説)排出
- ・気候変動によるリスクと機会の認識

地域社会

- ・自然災害等による供給トラブル

従業員

- ・作業者の労働安全衛生、人権

従業員

- ・作業者への研修・教育と環境の整備
- ・ダイバーシティ推進

お取引先

お客さま

- ・お客さま先での都市ガス消費に伴うGHG排出
- ・気候変動によるリスクと機会の認識

お客さま

- ・安全装置が装備されていないガス機器の使用によるお客さま先での事故
- ・製品・サービス、料金に関する適切な情報提供
- ・お客さまの個人情報保護

地球環境

地域社会

- ・教育などの地域に対する貢献

従業員

- ・作業者の労働安全衛生、人権

従業員

- ・作業者への研修・教育と環境の整備
- ・ダイバーシティ推進



お客さまへのエネルギーの安定供給、イノベーションによるサービス向上、省エネ情報等の提供・提案を通じて、持続可能な社会とビジネスの発展に貢献

天然ガスの効率的活用と再生可能エネルギー利用拡大による温室効果ガスの低排出を実現



災害によるエネルギーインフラへの影響を最小化し、レジリエント(解説)なまちづくりを実現

ジェンダー平等の実現と雇用の創出、従業員の安全衛生の推進に努める



ジェンダー平等の実現と雇用の創出、従業員の安全衛生の推進に努める

[DaigasグループCSR憲章]ごとのCSR指標

憲章Ⅰ お客さま満足度調査：7つの顧客接点業務

憲章Ⅱ 環境経営指標

憲章Ⅲ コミュニケーション活動／社会貢献活動

憲章Ⅳ 従業員コンプライアンス意識調査スコア／コンプライアンス研修受講率

憲章Ⅴ 社員意識調査

マテリアリティ指標に対応するGRIスタンダード項目

416 顧客の安全衛生

305 302 大気への排出／エネルギー

404 研修と教育

405 ダイバーシティと機会均等

413 地域コミュニティ

418 顧客プライバシー

308 414 サプライヤーの評価

201 経済パフォーマンス